

# ■第2期本渡北地区振興計画

計画期間	平成25年度～平成27年度	まちづくり協議会名	本渡まちづくり協議会	地区振興会名	本渡北地区振興会
------	---------------	-----------	------------	--------	----------

## 【地区の特徴】

地域資源(H22国勢調査参考)		
面積	7.9km <sup>2</sup>	
人口	10,199人	
就業人口(H22)	第1次産業	177人
	第2次産業	798人
	第3次産業	5,232人
区数	15区	
学校	本渡北小学校、本渡中学校、芥明高校、天草准看護高等専修学校	
文化財	延慶寺の兜梅、大矢遺跡出土品(以上、県指定重要文化財)。明徳寺山門、延慶寺の高札、木山家古文書、市ノ瀬橋と石碑(以上、市指定文化財)	
史跡	大矢遺跡(県指定重要文化財)。茂木根の横穴古墳、木山弾正の墓、三宅藤兵衛の墓(以上、市指定文化財)、部将の墓、丸尾が丘	
その他地域資源	水の平焼、丸尾焼、すけ工房、野の花工房、明徳寺、延慶寺、西の久保公園、広瀬公園(長島茂雄球場)、広瀬川の景観、本渡海水浴場、本渡歴史民俗資料館、本戸馬場八幡宮、天然温泉ペルラの湯舟、ギャラリーつる田、わくわく本渡児童館	
地域伝統芸能	八幡神楽舞い	
地域づくり団体	NPO法人AFURE、天の蔵、子育てネットワークわ・わ・わ	
地区のいいところ・自慢できること		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業が行われたことなどにより、街並みがきれい。また、車などの通行がしやすい。</li> <li>・行政機関や商業施設、医療機関、文化施設などが身近にあり、利便性が高く、安心して生活できる。</li> <li>・保育園や幼稚園、小・中学校、高校等があるなど教育環境が整っており、安心して子育てができる。</li> <li>・西の久保公園や本戸公園、広瀬公園、大矢崎緑地公園など、地域住民の憩いの場となる公園が多い。また、西の久保公園には花菖蒲園や自然生態園などがあり、広瀬公園には野球場やテニスコートなどがあって、多くの人たちに利用されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬川や小松原川をはじめ、市街地周辺が緑に囲まれているなど、豊かな自然に恵まれている。</li> <li>・2月に見ごろを迎える延慶寺の兜梅や、4月に広瀬公園・城山公園に咲き誇るサクラ、5月に花開く広瀬川沿いのツツジ、6月に西の久保公園に咲くハナショウブは、多くの人たちの目を楽しませ、心を和ませてくれる。</li> <li>・各区に地域行事が残っており、子どもたちに継承されている。</li> <li>・北地区大運動会やクリーン活動、伝統ある体育行事などを行っており、世代間・地域間の交流が図られている。</li> </ul>	

## 【地区の現状・課題】

※国勢調査の数値から

地区の現状				
項目	H17	H22	H27	H22/H17
15歳未満人口	1,907	1,865	1,824	98%
15～64歳人口	6,299	6,250	6,201	99%
65歳以上歳人口	1,861	2,038	2,232	110%
75歳以上人口	925	1,087	1,277	118%
人口計	10,067	10,153	10,257	101%
高齢化率(65歳以上)	18%	20%	22%	109%
15歳未満率	19%	18%	18%	97%
世帯数	3,882	4,023	4,169	104%
高齢者のみ世帯数		645		

## ◇地域が抱える課題・困っていること◇

・住宅やアパート、マンションなどが増加し、「隣に誰が住んでいるか知らない」といった話が聞かれるようになってきている。地区内に以前から住んでいる人と、新たに住み始めた人とのコミュニケーションをどのようにして図っていくかが課題となっている。

・近年、区に加入しない人(特に若年層)や地域行事・伝統行事に参加しない人が多くなっており、地域の人と人とのつながりが希薄になりつつある。

・区によっては、老人会や青年会、婦人会(女性部)、子ども会など各組織間・組織内の交流の機会が少なくなっている。

・地区の高齢化率は全国平均を下回っているものの、2,000人以上の高齢者が住んでおり、一人暮らしの高齢者などの数は年々増加している。また、認知症の人も増加傾向にあり、このような人々に対する地域住民の支援のあり方や、災害発生時の対応などが課題となっている。

・小学生と、自転車で登校する中学生が接触事故を起こさないか心配(通学路には危険箇所も多い)。

・また、子どもたちの登下校時は車の通行量も多く、事故が起きないか心配である。

・ゴミの野焼きや不法投棄が多い。

## ◇◆◇まちづくりの目標◆◆◇

テーマ	みんなでつくろう！心豊かで活気あふれる“本渡北地区”
考え方	市内最大の人口約1万人が住む本渡北地区は、土地区画整理事業などにより、良好で機能的な都市空間が形成されたほか、豊かな自然にも恵まれているなど、利便性が高く、大変住みよいまちとなっています。しかし近年、区(自治会)に加入しない人や地域行事に参加しない人が多くなっており、地域の人と人とのつながりが希薄になりつつあるなど、多くの課題があります。こうした課題の解決に向け、地区内に以前から住んでいる人と新たに住み始めた人、子どもから高齢者までが一体となって、地域住民の心ふれあう交流や健康・福祉の増進、きれいな街並みや豊かな自然の保全などを図りながら、「活気にあふれ、心豊かに安心して暮らせる“本渡北地区”づくり」を目標としていきます。

## ◇【分野別に考えられる課題や個性、特徴及び今後の方向性】

分野コード	分野別	具体的な課題・特徴・方向性等
I	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅やアパートなどの増加に伴って人口も増加傾向にあるが、区に加入しない人や地域行事・伝統行事に参加しない人(まちづくりに関心がない人)が多い。</li> <li>・ツツジが咲き誇る広瀬川の景観など、すばらしい地域資源を生かした取り組みが必要である。</li> </ul>
IV	健康福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会やソフトボール大会、ミニバレー大会など伝統ある体育行事が多い。</li> <li>・体育行事以外の健康増進事業が少ない。</li> <li>・一人暮らしの高齢者や認知症の人が増えており、地域住民がどのようにして支えていくかが課題である。</li> <li>・子どもたちと地域の人たちがふれあう機会が少なくなっている。</li> </ul>
V	青少年育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域などが連携し、子どもたちを見守り、育てていくことが必要である。</li> <li>・子どもたちと地域の人たちがふれあう機会が少なくなっている。</li> <li>・車の通行量が多いなど、小・中学生の事故(特に登下校時)が心配である。</li> </ul>
VI	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業が行われたことなどにより、街並みがきれいである。また、豊かな自然も多い。</li> <li>・住民の憩いの場となる公園が多く、たくさんの人たちに利用されている。</li> <li>・ゴミの野焼きや不法投棄が多い。</li> </ul>
VII	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の通行量が多いため、事故の発生が心配である。</li> <li>・地区内に遊技施設や人けのない公園があり、子どもが非行に走ったり、犯罪が起きたりしやすい環境がある。</li> <li>・高齢者などの数が多く、災害発生時の対応が課題である。</li> </ul>

## ◇【課題を解決するための基本方針】

分野コード	分野別	基本方針
I	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■心ふれあい、さらに賑わう地域づくり</li> <li>本渡北地区は、人口が増加傾向にある、市内でもまれな地域です。しかし一方で、地域の人間関係が希薄になっているといわれています。そのため、人と人との交流に重点を置いた、心ふれあう地域づくり活動を展開します。また、さらに賑わいのある地域とするため、地域資源を生かした取り組みも推進していきます。このほか、地域づくり活動のけん引役となる担い手の発掘・養成などにも努めていきます。</li> </ul>
IV	健康福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>■健康で幸せな生活が送れる地域社会づくり</li> <li>本渡北地区には、運動会やソフトボール大会、ミニバレー大会など伝統ある体育行事が数多くあります。今後もこれらの取り組みなどを通じて、住民の交流や健康増進を図っていきます。</li> <li>また、子どもたちと地域とのふれあいの機会の減少や、一人暮らしの高齢者等が増加しているため、青少年育成団体や地区社会福祉協議会などと連携し、子どもや高齢者などが安心して充実した生活を送ることができる地域福祉活動を推進します。</li> </ul>
V	青少年育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域の将来を担う健やかな青少年の育成</li> <li>地域の将来を担う健やかな青少年の育成を図るため、学校・家庭・地域・各種団体が連携し、子どもたちを地域でたくむ活動や、教育・スポーツ活動、教育環境の充実などに取り組んでいきます。また、児童・生徒の登下校時に通学路などでの事故が心配されるため、子どもたちの安全確保に向けた取り組みなどを推進していきます。</li> </ul>
VI	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■快適で住みよい生活環境づくり</li> <li>本渡北地区は、きれいな街並みや住民の憩いの場となる公園、豊かな自然などを持つ地域です。こうした街並みや公園、自然などを保全するため、環境美化活動などを積極的に展開します。また、環境を守り、育て、生かすまちづくりにも努めていきます。</li> </ul>
VII	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■安心・安全なまちづくりの推進</li> <li>本渡北地区には、遊技施設や人けのない公園があるほか、車の通行量も多く、犯罪や事故が起きたり、子どもが非行に走ったりしやすい環境があります。また、高齢者数は2,000人を超えており、災害発生時の対応などが課題となっています。こうしたことから、防犯・交通安全・防災の取り組みを展開するなど、安心・安全なまちづくりの推進に努めていきます。</li> </ul>

本渡北地区振興会 地域行動計画

記号	分野別 ジャンル	事業名	部会名	これまでの成果・課題		今後の方向性・目標	具体的事業内容(数値も記入)	事業区分		備考
				方向性				新規	継続	
I	地域づくり	自治活動等・先進地視察研修	地域づくり	○	区未加入者対策やエコ活動、防災活動などの先進事例を学ぶことができ、少しずつだが、地区振興会活動などにも取り入れている。	今後も、年1回の視察研修を実施し、九州内の先進事例を学ぶことにより、北地区の活性化を図る。	区長などを対象に、自治会活動やまちづくり活動などで先進的な取り組みを行っている地域の視察研修を、年1回実施する(H24・17人参加)。		○	
I	地域づくり	区加入促進に関する検討	地域づくり	○	市総務課とも話し合いを実施。各区での取り組みに限界を感じており、新たな取り組みの展開までには至っていない。	区への加入促進については、市との連携が大切。今後も市と協力し合いながら、区加入率の2%向上を目指し、加入促進に関する検討・取り組みを進めていく。	区未加入者に対する加入促進についての検討を、随時実施する。		○	
I	地域づくり	クリスマス・イルミネーション	地域づくり	○	地域住民などから大変好評を得ている。今後は、飾り付け方などの工夫が必要。	この事業は、平成22年度にスタートし、北小学校の児童や地域住民にも大変好評である。今後も、電飾の飾り付け方を工夫するなどしながら実施する。	11月から12月にかけて、主要施設などにイルミネーションを設置・点灯する。		○	
I	地域づくり	老人クラブ先進地視察研修	地域づくり	○	他地域の活動などについて視察し、良い刺激を受けている。また、良い交流の機会にもなっている。	今後も、年1回の視察研修を実施し、先進事例を学ぶことにより、高齢者による地域の活性化を図る。	老人クラブ役員などを対象に、老人クラブ活動やまちづくり活動などで先進的な取り組みを行っている地域の視察研修を、年1回実施する(H24・27人参加)。		○	
I	地域づくり	生ゴミリサイクルによる元気なまちづくり	地域づくり	○	参加者が熱心に取り組み、一定の成果を得た。虫がわき取り組みを断念する人がいたり、材料購入の難しさがあつたりすることが課題。	家庭ゴミの減量や地域住民の交流を図る良い取り組みであり、今後も、課題解決の検討などを重ねながら実施する。	モデル地区を選定し、ダンボールコンポストにより各家庭で生ゴミを堆肥化するとともに、その肥料を持ち寄り、花づくりなどを行う(H24・大矢崎区民延べ51人参加)。		○	
I	地域づくり	らくらく教室	地域づくり	○	地域づくりや健康、生ゴミ削減などをテーマに研修等を実施。この研修等の成果が各区に広がっていかないと課題。	今後も、女性の視点を生かし、地域課題などに応じた内容の講座を実施する。また、講座で学んだことを各区で生かす方策についても検討する。	北地区在住の女性などを対象に、地域づくりや健康、福祉、環境などをテーマとした講座を、年2回程度実施する(H24・1回目9人、2回目22人参加)。		○	
I	地域づくり	北地区大運動会	地域づくり	○	一大イベントとして、数多くの住民が交流する良い機会となっている。競技内容のマンネリ化が課題。	北地区の一大イベントであり、地域振興に大きく寄与している。今後も、参加者増につながる競技内容などを検討し、ますます盛大な事業となるよう取り組んでいく。	子どもからお年寄りまで、だれもが気軽に参加できる各区対抗の運動会を、10月の第2日曜日に実施する(約2,000人参加)。		○	
I	地域づくり	地域リーダー養成事業	地域づくり	○	各区長を中心に、まちづくり研修事業などに参加。一般住民からのリーダー発掘が課題となっている。	リーダーの発掘・養成は、地域づくりを行ううえで大変重要なことである。今後も各種事業への参加を推進するとともに、発掘・養成に向けた検討なども実施する。	地域づくりについての各種講座や先進地視察研修などに積極的に参加する(H24・6人参加)。		○	
I	地域づくり	各種サークル活動	地域づくり	○	体育系22・文化系11のサークルが、積極的な活動を展開している。	今後も、各種サークルに対する支援を継続し、人と人のつながりや生涯学習活動の推進を図る。	ミニバレーや健康体操、空手など体育系22、囲碁や織物、絵手紙など文化系12の計34サークルの活動を支援する(H24・会員数約518人)。		○	
I	地域づくり	地区振興会だより発行	地域づくり	○	毎月1回、約3,700部を作成し、北地区の区加入世帯などに配付。各種情報の周知を図っている。	北地区の情報やお知らせを住民などに周知する重要な取り組みである。今後も、内容の検討などを行いながら、わかりやすい情報の発信に努める。	地域行事や各種のお知らせなどを掲載し、毎月1回、区加入世帯などに配付する(約3,700部作成)。		○	
I	地域づくり	ホームページ管理	地域づくり	○	毎月1回程度更新。地域の情報や地区振興会だよりなどを掲載し、地区内外に各種情報の周知を図っている。	北地区の情報やお知らせを住民などに周知する重要な取り組みである。今後も、内容の検討などを行いながら、わかりやすい情報の発信に努める。	地区振興会だよりの紙面・内容や、行事予定などをホームページに掲載する(月1回程度更新)。		○	
IV	健康福祉	青壮年ミニバレーボール大会	健康増進	○	参加チームは増えているが、すべての区からの参加までには至っていない。	平成24年度から開催時期を変更し、参加チームが増加。今後も、全区からの参加を目指して実施していく。	各区・青壮年会对抗の大会を、6月中旬に実施する(H24・11チーム・138人参加)。		○	
IV	健康福祉	青壮年スローピッチソフトボール大会	健康増進	○	参加チームは増えているが、すべての区からの参加までには至っていない。	すべての区からの参加を目指して、呼びかけの強化や開催時期などについての検討を行う。	各区・青壮年会对抗の大会を、9月の第1日曜日に実施する(H24・8チーム・108人参加)。		○	

本渡北地区振興会 地域行動計画

記号	分野別 ジャンル	事業名	部会名	これまでの成果・課題		今後の方向性・目標	具体的事業内容(数値も記入)	事業区分		備考
				方向性				新規	継続	
Ⅳ	健康福祉	青壮年グラウンドゴルフ大会	健康増進	○	毎年40人程度は参加しているが、若年層の参加が少ない。	より多くの若年層が参加するよう、呼びかけの強化や競技内容などについての検討を行う。	青壮年会員を対象に大会を、2月下旬に実施する(H24・36人参加)。		○	
Ⅳ	健康福祉	老人大学	健康増進	○	さまざまな学習内容により、毎回、参加者も多い。高齢者の良い交流の機会にもなっている。	平成24年度まで公民館との共催事業として実施。平成25年度からは自主活動として取り組み、高齢者の生涯学習活動のさらなる活性化を図る。	5月から翌年2月までの毎月1回、各種の講座などを実施する(H24・学級生169人・延べ576人参加)。		○	
Ⅳ	健康福祉	北地区グラウンドゴルフ大会	健康増進	○	毎回、参加者も多く、高齢者の健康増進や交流にもつながっている。	健康づくりや生きがいづくりなどとして大変有効であり、今後も、より楽しく参加できる内容を検討しながら、参加者の増加を図っていく。	老人クラブ会員など高齢者を対象とした大会を、10月中旬に実施する(H24・123人参加)。		○	
Ⅳ	健康福祉	(仮称)レディース・ミニバレーボール大会	健康増進	○	参加チームの力の差やマンネリ化などもあり、参加チーム数が少なくなっている。	ソフトバレーは参加チームの減少が続いているため、ミニバレーに変更し、競技内容も検討して、多くの女性が気軽に参加できるような大会を実施する。	北地区の女性チームやコミュニティセンターサークルチームなどを対象とした大会を、7月の第1日曜日に実施する(約10チーム・50人程度参加)。		○	
Ⅳ	健康福祉	北地区ウォークラリー	健康増進	○	毎年150人程度が参加。コースの範囲が限られており、コース選定に苦慮する。	北地区住民の健康維持・増進はもちろんのこと、北地区の魅力を知り、“新しい発見”もできるようなコース選定をするなど、創意工夫をしながら実施する。	北地区在住の小学生以上を対象に、5～8kmのコースを歩きながら、名所・旧跡などをめぐる大会を、11月中旬に実施する(H24・139人参加)。		○	
Ⅳ	健康福祉	北地区ミニバレーボール大会	健康増進	○	平成23年度から前回大会の成績に応じてクラス分けを行い、大会を実施。参加者にも好評である。	平成23年度から、前回大会の成績等に応じたクラス分けによる大会を実施し、参加者にも好評である。今後も、内容の検討をしながら、全区参加を旨として取り組む。	11月・第4週の5日間程度、各区対抗による5人制の大会を実施する(H24・18チーム・118人参加)。		○	
Ⅳ	健康福祉	敬老会	福祉生活	○	各区ごとに、趣向を凝らした敬老会を実施しており、一定の成果を得ている。	年々、対象者数は増加しているが、参加者数は減少している。今後も区を単位に、より多くの人に参加いただけるような計画・立案をし、実施していく。	各区単位で敬老会を実施する(H24・9月9～22日:10区実施、5区中止)。		○	
Ⅳ	健康福祉	命のバトン事業	福祉生活	○	1～2人暮らしの高齢者や障がい者などにバトンを配付。利用者にも安心感が出るなど大変好評。今後は対象者が増加する見込み。	今後も、高齢者や障がいがある人など必要な人に対してバトンなどを配付し、緊急時に対応する。	バトン(容器)などを高齢者に配付し、緊急連絡先などを記した用紙を入れて冷蔵庫に保管しておく(バトンは、平成24年11月までに273本配付済み)。		○	
Ⅴ	青少年育成	伝承遊び交流会	子ども育成	△	平成24年度まで、北小学校の4年生を対象に、こま回し体験教室を実施。こまの材料不足や講師の高齢などにより、継続実施が難しくなっている。	こま回し体験教室は、こまの材料不足などにより実施が難しいため、平成25年度から伝承遊びに変更し、子どもたちと地域住民(民生委員)とのさらなる交流を図る。	北小学校の3年生・約50人程度を対象に、1学期中の土曜日、けん玉や輪回し、おはじき、ゴム跳びなどの伝承遊びによる交流会を実施する。		○	
Ⅴ	青少年育成	地区対抗球技大会	子ども育成	○	子どもたちの生き生きとしたプレーが、各区の盛り上がりにもつながった。全区の子ども会からの参加を期待したい。	児童数の少ない区どうしの合同参加などを呼びかけ、全区からの参加を旨とするともに、児童相互の交流を深める。	児童を対象とした各区対抗の大会を、7月下旬に実施する(H24・男子ソフトボール9区9チーム約150人、女子ビーチバレーボール11区10チーム約150人参加)。		○	
Ⅴ	青少年育成	地区対抗駅伝大会	子ども育成	○	平成23年度から、会場を大矢崎緑地公園に変更し、大変な盛り上がりを見せている。	児童数の少ない区どうしの合同参加などを呼びかけ、全区からの参加を旨とするともに、児童相互の交流を深める。	児童を対象とした各区対抗による12区間・約10.7km(1～3年・約720m、4～6年・約1,073m)の駅伝大会を、12月上旬に実施する(H24・11チーム・132人参加)。		○	
Ⅴ	青少年育成	ふれあいフェスタ	子ども育成	○	多くの児童・住民の参加を得ている。今後は、他事業との連携により、北地区全体の祭りの催しとすることができないか検討したい。	北地区内の他の事業との連携により、地区全体のお祭りの催しへの発展を旨とする。また、教育環境のさらなる充実を図る。	物品や食のパザー、各種ゲームなどを、11月中旬に実施する(H24・約800人参加)。		○	
Ⅴ	青少年育成	家庭教育講演会	子ども育成	○	さまざまな分野から講師を招いて、貴重な話を聞くことができた。予算の範囲内での講師選定に限界がある。	毎年、さまざまな分野の講師を招へいし、北地区の家庭教育の充実を図る。	児童の保護者などを対象に年1回、家庭教育をテーマとした講演会を実施する(H24・180人参加)。		○	

本渡北地区振興会 地域行動計画

記号	分野別 ジャンル	事業名	部会名	方向性	これまでの成果・課題	今後の方向性・目標	具体的事業内容(数値も記入)	事業区分		備考
								新規	継続	
V	青少年育成	資源物回収活動	子ども育成	○	生徒と保護者が協力し合いながら活動することができた。資源物の回収量増を図るための方策などについて検討が必要である。	生徒と保護者が協力し合える良い機会となっている。今後は、空きびん・空き缶に加え、古紙の回収についても検討する。	生徒・保護者が年1回、各区の家庭などをまわり、資源物を回収する。		○	
V	青少年育成	子ども育成講演会	子ども育成	○	さまざまな分野から講師を招き、意義深い講演会を実施することができた。参加者が少ないことが課題。	参加者数が少ないため、呼びかけを強化するなど参加者増を図るための方策を検討しながら実施していく。	生徒の保護者などを対象に年1回、子ども育成をテーマとした講演会を実施する(H24・46人参加)。		○	
V	青少年育成	小学生料理教室	子ども育成	○	メニューの内容などにより参加者が多いとき、少ないときがあるが、継続的な参加がある。	参加者が減少傾向にあるため、PRを強化するとともに、郷土料理や季節に応じた料理などに加え、子どもたちが喜ぶメニューも取り入れながら実施していく。	北小学校の児童(20人程度)を対象として、5月から翌年3月までの毎月第2土曜日に、季節に応じた料理などを作る(H24・延べ134人参加)。		○	
VI	環境整備	北地区クリーン活動	環境整備	○	数多くの住民が参加し、一定の成果を得ている。実施時期やゴミ処理の方法などについて検討が必要。	毎年、中学・高校生の参加が少ない。この活動は、子どもを育成する場でもあるので、中学・高校生の参加者増を図る方策を検討し、実施していく。	6月の第2日曜日を中心に、各区単位で清掃作業などを実施する(H24・約2,600人参加)。		○	
VI	環境整備	ツツジで彩る景観づくり	環境整備	○	今釜・広瀬の両区民がそれぞれ年3回、広瀬川両岸に咲くツツジの維持管理活動を行い、美しい景観が保たれている。	今後も、今釜・広瀬の両区によりそれぞれ年3回、広瀬川両岸に咲くツツジの維持管理活動を実施し、美しい景観の保持と住民相互の交流を図る。	今釜・広瀬の両区民がそれぞれ年3回、広瀬川両岸に咲くツツジの剪定など維持管理活動を行う(H24・延べ98人参加)。		○	
VI	環境整備	青壮年・清掃奉仕活動	環境整備	○	毎年70人程度が参加。今後は公園内の除草作業のほかに、市街地のゴミ拾いも実施予定。	より多くの青壮年に参加を呼びかけ、公園内の除草作業だけでなく、市街地のゴミ拾いなども実施する。	青壮年会員が、北地区内にある公園などの清掃作業を行う(H24・約70人参加)。		○	
VI	環境整備	高齢者・清掃活動	環境整備	○	多くの高齢者が参加し、地域の環境美化が図られている。若い人たちも、積極的に奉仕活動を実施してほしい。	今後も、全国一斉「社会奉仕の日」にあわせて、各区ごとに地域の清掃活動を実施する。	老人クラブ会員が年1回、各区ごとに公園や自治公民館周辺などの清掃作業を行う(H24・244人参加)。		○	
VII	その他	防災訓練	生活安全	○	平成24年度から実施。防災訓練に初めて参加する住民も多く、防災意識の向上などにつながったと思われる。参加者が少なかったことが課題である。	今後も、防災訓練の未実施の区を対象に年1回実施し、区民の防災意識の向上や自主防災組織の運営強化などを図る。	防災訓練を実施したことがない区を対象に、防災に関する講話や炊き出し訓練、心肺蘇生法の実技などを実施する(H24・城下区民等49人参加)。		○	
VII	その他	防犯パトロール「地域みまもり隊」	生活安全	○	地域内の犯罪等の防止につながっている。活動内容などを再検討し、取り組みの充実を図りたい。	より活動的な組織体制をつくり、活動することにより、地域住民の防犯意識の高揚を図るとともに、犯罪を未然に防止し、子どもたちの安全を確保する。	児童の登下校時などに、北小PTAや老人クラブの会員等が腕章などを付けて随時巡回し、子どもたちを見守る(H24に腕章45枚作成・配付)。		○	
VII	その他	地域安全マップ	生活安全	○	マップは全戸に配付。住民から好評を得ている。ある程度の予算が必要となるが、3～5年に1度は発行したい。	今後も定期的にマップの内容を更新し、各家庭に配付することにより、地域住民の防犯・防災意識の向上を図る。	北小PTAの会員を中心に、地域の危険箇所などを点検し、マップを作成。北地区の各家庭に配付する。		○	
VII	その他	危険箇所看板設置	生活安全	○	重要ポイントには、耐久性のある看板の設置が望まれる。	児童といっしょに看板をつくり、設置することにより、交通事故の防止や危険箇所の周知などを行う。	地域の危険箇所や、設置済み看板の状況などを調査し、7月末ごろ、看板の新設・交換を行う。		○	
VII	その他	交通危険箇所等看板設置	生活安全	○	産交バス車庫前交差点付近に、一時停止を促す看板を設置。交通違反・事故などの防止につながっていると思われる。	今後は、交通危険箇所だけでなく、事件や災害が発生する恐れがあるような箇所についても調査を行い、注意を呼びかける看板を設置する。	北地区を巡回し、交通危険箇所などに注意を促す看板などを設置する。		○	

※必ず、当該様式を利用願います。

※方向性欄は、総合的な評価をふまえて、◎『拡充』、○『継続』、△『縮小』、×『廃止』を記入してください。